

2021年5月30日(日)／説教者：國分美生

説教：「神のパートナー」

聖書：創世記1：21～31

神は天地創造の最後に人間を造りました。その際「神はご自分にかたどって人を創造」し、また、その人間に他の被造物を統治する権利を与えました。人間が「神の似姿」であるということは、どういうことをいうのでしょうか。

「…海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」と神は人間を祝福されました。この「支配」という言葉の印象は、私たちにとっては独裁的・暴力的なイメージがあります。他者を自分の思い通りにしたい人のことを「支配欲の強い人」と言ったりします。ですがここでいう「支配」は人間を含むすべての被造物に対する主権者である神のご支配のことであって、暴力的に支配したり、好き勝手に消費するということではありません。「管理する」と言い換えることもできます。その仕事を委託されたことが、「神の似姿」の意味かもしれませぬ。神と人間は圧倒的な力の差がありながら、非常に親密な関係です。人間はその神のご支配のもとで平安を得ます。神のご支配は、「神の愛」です。

周囲を見まわしてみても、神のご支配ではなく、いかに人間の自分勝手な支配があふれているか気づきます。様々起きている問題に共通するのは人間の支配欲です。例えば、ミャンマーの国軍の、市民への弾圧。また、パレスチナに対するイスラエルの不法な攻撃や人権侵害。世界でもまれにみる非人道的で厳しい日本の難民政策。差別的な扱いを受け、支配を受ける苦しみを沖縄も経験してきました。そしてまた私たちは、相手より優位に立ちたいと思うのはすでに支配の始まりなのだということを、肝に銘じたいと思います。

この後人間は神に背き、エデンの園を追放されます。つまり「神の似姿」であった人間の本来の姿は人間自身の罪によって一度失われ、しかし、キリストの十字架による神と人間との和解によってキリスト/神に似た者となる、と聖書は言います。この世を管理する働きをしていくためには、私たちにはキリストの存在が不可欠なのです。神は人間に働きを委託されましたが、それは丸投げしたという意味ではなく、神の御業のパートナーとして、神とともに働いていくということです。

神の造られた、本来秩序ある美しい世界が、脅かされているのを見たとき、どのようにふるまうか。自分はどこに立つのか。常に問い続け、探し続けていくことが、キリストへの道、平和へ道であるといえるでしょう。(國分美生)